令和7年度　学校評価表　　（ 中間 ・ 最終 ）　　三原市立久井中学校　　校番（ 中29 ）

a 学校教育目標	ふるさとを愛し、鍛えよ『 知・徳・体 』	b 経営理念（ミッション・ビジョン）	【ミッション】（自校の使命）　〇社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】（自校の将来像）　〇主体的な学びが育まれる学校　〇夢や志があり、誰もが通ってみたい学校　〇地域の活力の源として信頼される学校

評価計画						自己評価					改善方策	Ⅰ 学校運営協議会　評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	1月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	評価 イ	評価 ロ	評価 ハ	コメント
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの創造	主体的な学びに向けた授業づくり	〇小・中の教員が一体となった教育研究の推進 ・教員のファシリテート力の向上 ・R80を核とした授業デザイン力の向上 〇実力テストや生徒アンケートに基づく授業改善 〇デジタル指導書やクロームブックの効果的な活用	生徒アンケート「授業の内容がよくわかりますか」に肯定的回答をした生徒の割合	85%	87.3%	90.0%	100.0%	A	今年度は、「学力定着に向けた一授業時間の展開　～R80を核とした授業デザインを通して～」を研究テーマとして、授業研究を全教科で実施した。 生徒アンケート「授業の内容がよくわかりますか」に肯定的回答をした生徒の割合は90.0%と、中間より上昇し、成果があらわれた。	引き続き、本校の研究主題に沿って1人1授業研究を進めていく。また、全国学力・学習状況調査などの学力調査の結果の分析結果をもとに、改善策を考え、実行していく。 また、久井中ノート（自主勉）、新研究（問題集）を引き続き取り組ませ、ドリルパークやeボードなどのデジタルコンテンツの有効な活用も引き続き推進し、学力向上に取り組む。	〇			〇先生方が工夫し、生徒に寄り添った授業をされていた。 〇久井中ノートの継続と成果に期待している。
				実力テスト（年間2回実施）の各教科の平均点が右肩上がり	80%	＜各学年全教科平均＞ ①307.4点 ②196.9点 ③248.0点	＜各学年全教科平均＞ ①273.0点 ②107.5点 ③260.7点	33.3%	D	3年生のみ、右肩上がりになった。しかし、1年生は1回目・2回目ともに、全国・県平均を25点以上上回っていた。2年生は、1回目から約90点下がった。全国・県平均も右肩下がりであることから、難易度も上がっていると考える。 以上のことから、各学年の学習集団としての特徴がそれぞれ違う。特に2年生については、数値が全体的に低いことから、基礎的な学習の定着や学習に向かわせるための手立てが必要である。	1年間の研究協議を踏まえ、生徒理解・C層の生徒への支援を継続すると同時に、中・上位層の学力向上に向けて授業改善を行っていく。特に、R80の全教科での実施を通して、教師の授業を構想する力・適切な問いを設定する力を高め、授業改善につなげていく。標準学力調査の結果を受け、生徒の躓きに対する問題の解き方について指導を行うなど、基本的な学習の定着につなげる。	〇			〇学年差の是正を望む。
		家庭学習の充実	〇久井中ノートの効果的な活用・内容の充実 〇家庭学習の習慣化、量（時間）の増加・質の向上	生徒アンケート「家庭での学習時間（1週間の平均）」が1時間以上の生徒の割合	80%	＜全体＞ 52.1% ① 37.5% ② 43.8% ③ 67.7%	＜全体＞ 64.3% ① 54.2% ② 52.9% ③ 79.3%	80.4%	B	前期と比べて、家庭学習に意欲的に取り組んでいる生徒が増えた。3年生は特に進路の実現に向けて努力する姿勢がみられた。家庭学習について保護者へ協力を求めた成果も現れたと感じる。しかしながら、「ゲームや動画視聴を1日に2時間以上している」生徒が70.0%いることも課題としてあげられる。	全学年で、5教科の課題を毎日出す取組をはじめたことで、学習機会が増え、学習時間も増えたと考えられることから、継続して取組を行っていく。また、前期の53%からは減ったが、「家庭でゲームや動画視聴に関するルールは決めていない」と回答した生徒が40.0%いることからも、保護者への啓発や連携も密にしていく。	〇			〇家庭・保護者との連携がさらに必要。
豊かな心	自己肯定感が高い心豊かな子供の育成	不登校の未然防止 地域貢献意識の向上	〇SSRを核とした不登校対策、相談体制の充実 〇「生徒指導実践上の視点」に基づく教育活動の展開 〇生徒会活動の活性化（自治能力の育成） 〇自主参加による地域ボランティア活動の充実	生徒アンケート「学校行事への満足度」の肯定的回答の割合	90%	97.2%	100.0%	100.0%	A	「学校行事に満足していない」と回答した生徒は0人だった。生徒は学校行事に魅力を感じ、積極的・主体的に参加していることが分かる。 生徒アンケート「自分を向上させるためにがんばっています」98.6%、「自分は、まわりの人から認められていると思います」94.3%、「自分には、よいところがあります」87.1%と、いずれも昨年度を上回っている。この結果からも、自己肯定感が育ってきていると考えられる。	これからも生徒会執行部を中心に、魅力ある学校行事を創り上げていく。 「まわりの人のよいところを探すことができます」と回答した生徒が98.6%と高い。引き続き、お互いの良さを感じれとるような道徳の授業や学校行事を仕組んでいく。	〇			〇授業参観から、生徒同士の仲の良さが伺われた。 〇学校生活を、安心して楽しく過ごせる風土が育っているように思えた。
健やかな身体	体力向上と基本的生活習慣の育成	体力づくりの充実 健康教育・食育の推進	〇9年間を見通した体力づくり 〇体力テスト結果で明らかとなった課題克服に向けた具体的な運動の実施・推奨 〇「金のルール」等に基づく生活指導（早寝・早起き・朝ご飯・正しい食生活への関心の向上）、保護者啓発	「体力・運動能力調査」で全国平均を上回った種目数	15種目	8種目	8種目	53.3%	D	課題のある種目のみ再計測をしたが、変化がなかった。 男女ともに上回ったのが、長座体前屈とボール投げである。反対に、上体起こし・20mシャトルランについては、男女とも県平均より低いため、筋力、持久力に大きな課題がある。	保健体育の授業において、単元に即した補強運動を継続的に取り入れていく。また、クロムブック等を積極的に活用して自分の動きや記録を振り返る活動を取り入れていく。 また、運動部や生徒会活動においても、持久力を高める運動を取り入れて持久力の向上を図る。	〇			〇体力については、個人個人で差が大きいように思われた。 〇体力向上には、特別な時間を設定するよりも、普段の生活の中で身体を動かしながら体力をつけてほしい。
開かれた学校	地域と協働した教育活動の展開（コミュニティ・スクールの推進）	郷土愛の醸成 地域全体で子供たちを育てる体制づくり	〇CSの理念や意義の周知・啓発、積極的な情報発信 〇運営協議会・協働本部・活動推進員による取組推進 〇施設一体型連携校としての強みを活かす取組づくり 〇地域と協働した防災や交通安全等の教育活動の実施	生徒アンケート「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に肯定的回答をした生徒の割合	85%	87.3%	84.3%	99.1%	B	生徒アンケート「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」において約8割の生徒が肯定的な回答をしている。このことから、地域のボランティア活動に参加し、地域のために貢献しようとする生徒が多いことが分かる。また、地域のお祭りや行事に積極的に参加しようとする生徒がたくさんいた。 コミュニティ・スクールは、授業や学校行事を地域と共に行い、充実したスタートができている。	学校運営協議会等で、地域からの評価をいただくことで、その結果をもとにPDCAサイクルで取り組んでいく。 また、引き続きコミュニティ・スクールとしての取組をより一層推進し、地域の人材や教材を有効に活用した授業や学校行事を行っていく。	〇			〇取組を聞く中で、地域や関係機関とよく協働できていると感じた。芸術や運動部門など、たくさんの行事を取り入れると良いと思う。 〇学校として、地域と協働して素晴らしい取組をしていると思う。
働き方改革	風通しの良い職場づくり ワークライフバランスの確立	不祥事根絶 長時間勤務の縮減	〇教職員の資質向上に向けた積極的な研修・研鑽 〇ヒヤリ・ハット事案の洗い出し・共有化・即時対応 〇時間外時間の管理（45時間/月）、定時退校日の徹底 〇ボトムアップによる業務改善、働く者の意識改革	保護者アンケート「本校の教育活動に満足している」の肯定的評価の割合	85%	88.5%	94.6%	100.0%	A	目標より9.6ポイント上回る評価であった。また、保護者アンケート「学校だより・学級等からのたよりで学校の様子がよくわかる」では、肯定的評価が100%であったことから、学校の情報を発信し続けたことがこのような高評価につながった。	今後も、学校の取組や日常の教育活動を分かりやすく発信し、保護者が学校の様子を身近に感じられるようにする。あわせて、生徒一人一人の学びや成長の過程を丁寧に伝え、家庭と連携して教育活動の充実を図る。	〇			〇先生方の熱心な働き方に敬意を表したい。
				時間外の在校時間が月45時間以内の職員の割合	85%	71.4%	85.7%	100.0%	A	常勤教職員14名の10月から1月末までの在校時間45時間以内の割合が85.7%であった。 前期と比べ14.3ポイント向上した。また、前年度の同時期（73.3%）と比べても、12.4ポイント向上したことから、働き方改革への職員の取組が向上し、働き方が変容してきている。	これまでの成果を踏まえて仕事の進め方を見直し、行事や会議を整理するとともに、ICTを活用して事務作業の負担軽減を図る。また、部活動では複数顧問体制による休養日の確保を行う。さらに、管理職の声かけや情報共有を通して、職場で支え合いながら無理なく働ける環境づくりを行う。	〇			〇退校時間が早くても、家庭でお仕事をされているのではないか心配である。

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　　C：60≦（もう少し）＜80
B：80≦（ほぼ達成）＜100　　D：（できていない）＜60

【Ⅰ：学校運営協議会　評価】
イ：自己評価は適正である
ロ：自己評価は適正でない　ハ：わからない